

アメリカの場面緘黙グループ小児期不安ネットワーク（SMG～CAN）の資料です。 **資料 No. 15**  
日本では「場面緘黙」の理解や治療体制が大変遅れています。  
この資料を日本で使われる時は、日本の現状を考えた上で参考にされることをお勧めいたします。

原文：“BILINGUAL AND SELECTIVELY MUTE”  
The Selective Mutism Group Childhood Anxiety Network (SMG～CAN)のHP  
[http://www.selectivemutism.org/resources/library/index\\_html/bilingual-issues/](http://www.selectivemutism.org/resources/library/index_html/bilingual-issues/)  
(2009年1月最終アクセス)

資料：配布してください！

場面緘黙症を説明するために、この情報を先生や家族、友達、専門家にお伝え下さい。

E. シボンブラム博士 著  
場面緘黙グループ小児期不安ネットワーク（SMG～CAN）最高責任者・医学管理責任者

## バイリンガルと場面緘黙

バイリンガルで場面緘黙の子どもの多くは、生まれつき抑制的気質傾向があります。他人に対する警戒や慎重さが原因となって、場面緘黙が生じる可能性があります。子どもが「馴染みの少ない」ことばの環境におかれた時に起こる不安や恐怖感から、自分を守ろうとする試みの1つなのです。

### （１）ある男の子のケース

あるスペイン系の男児は、4才まで家庭ではスペイン語のみで過ごし、英語に触れる機会が限られていました。学校に入学して、他の児童がいつも簡単に英語を使いこなし、話しているのを目にします。彼はまだ英語に全く自信がなく、何か言い間違いをして、皆から注目されたらどうしようと不安を感じて怖くなりました。間違った言葉を言うかもしれないという不安は、時間がたつにつれひどくなり、不安感や恐怖感を避けるうちに場面緘黙を発症しました。家庭で話される言語と学校の言語が異なる子どものすべてが緘黙になるわけではありません。多くの子どもは、緘黙にはならないでしょう。しかし、抑制的な気質傾向がある子どもは、場面緘黙になる危険性があります。

### （２）母国語でも話せないのはなぜ？

「家では話さない”馴染みの少ない”言語に不安を感じているのなら、どうしてうちの子は母国語を話す親戚に対しても話せないのでしょうか？」という質問がよくあります。

一旦話すことへの不安が生じると、その不安は母国語にまで簡単に移ってしまいます。実際、私はこのような事例を多く目にしてきました。それだけでなく、母国語が話されている国に帰国する時でさえ、全く緘黙のままにいる子どももいます！ このようなことが関係者を混乱させ、バイリンガルで場面緘黙の子どもに対する治療方法の理解を難しくしているようです。

社会的場面でどちらの言語でも緘黙になる子どもは、自信がもてない新しい言語環境のみで緘黙になる子どもに比べて、話せるようになるのが難しいようです。おそらく緘黙は新しい言語の環境から始まるでしょう。時間を経て、話すことへの不安が強くなるにつれ、それが母国語にまで移っていくと考えられます。だからこそ、早期の診断と治療が重要なのです！

### (3) バイリンガルの緘黙児の援助法

下記のように、緘黙児を援助する際に用いる方法はたくさんありますが、私はバイリンガルの子どもにアプローチする場合、これらの方法をその子にあわせて変えてきました。

#### ● 学校訪問

朝や放課後など人が少ない時間帯に、子どもとひとりに学校に行きます。あなたでもよいし、誰か子どもが話したいと思う相手でよいので、安心して話せる方の言語でおしゃべりさせましょう。まずは、子どもが「自分は学校で話せるんだ」と感じるようになることが大切です。

子どもが校内で母国語を使ってあなたと話し始めたら、英語（もしくは第二言語）を促します。子どもがのってこないようなら、ごほうびシールを用いるなど正の強化（注）を用いましょう。学校であなたと話せるのに、英語で話せない場合は、英語に自信がないことが原因でしょう。家庭や他の場所（店、大型スーパー等）でも、可能な限り英語で話すようにします。

それでも、なかなか英語が出ないようなら・・・子どもと話し合ってみましょう！ 例えば、あなたと学校で週に2日は英語で話し、週3日は母国語で話すというようにします。このような方法は、子ども自身に治療目標を定めさせるという点で利点があります。

#### ● 子どもが先生役になる方法

何かを習得するには、人にそれを教えるのが1番早道と言われていています！ 子どもに英語を教えてもらいましょう。ワークブックやテープやゲームなど、なんでも使えます。

学校では、先生と2人で過ごせる時間をとってもらいましょう。社会的なプレッシャーが全くないところで、先生に対して気楽に感じられるようにすることがねらいです。緘黙児が母国語に自信があり、先生と2人で過ごすことができるようなら、子どもが先生にことばを教えるというのも、多くのバイリンガルの子どもにとっては有効な方法となります。

友達との遊びの約束をした時は、友達に母国語の簡単なことば（例えば、色、数字、歌など）を教えるように言ってみましょう。そして、先生には教室での活動の時に、この友達とお子さんをペアにしてもらおうとよいでしょう。お子さんは母国語には自信をもっているのです、他児に教えることや主導権を感じることは、たいへん効果的な場合が多いのです。

#### ● 最初は母国語を使う方法

お菓子作りやボードゲームなど、なんでもお子さんが好きなことをして、他の子ども達とひとりに遊ばせましょう。最初は母国語で始めて、回を重ねるごとに英語にしていきます。もし友達があなたの母国語を使うのを嫌がれば、英語を使いましょう。しかし、お子さんは好きな方の言葉を話したり、つぶやいてもかまわないことにします。

ほとんどのバイリンガルの子どもは、母国語を使う方が気楽です。まず母国語を話すように促すのが、出発点としてはよいでしょう。母国語での発話があれば、それからさまざまな方法で工夫をして、英語に切り替えていきます。

（訳者注）望ましい行動を形成するために、望ましい行動が出現した直後に、賞賛や食べ物のような正の強化因子を用いる行動療法の手法